

20. 人間・環境学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 55)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 56)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 研究科を横断して実施される「研究科横断型教育プログラム」に参画し、学際的、複合的な研究課題に対して、大学院生が人間・環境学研究科の専門教育に加えて、広い視野を持ち、新しい学問領域を創造できるような研究能力（俯瞰力と独創力）を備えるための学修機会を整備した。
- 平成 28 年度から、毎年 1 回開催している一般向けの公開講座を、京都大学オープンキャンパスの日程にあわせて開催することとしている。また同年度から、従来の講師が一方向的に話をするだけの講座ではなく、コメンテーターとして複数の教員にコメントしてもらうことで、より聴衆の方々にも興味をもって聞いていただけている。
- 平成 28 年度より学際教育研究部が企画する、総人・人環学際セミナーを年 1 回開催した。当該セミナーは、特定のテーマ（平成 28 年度：ガラス、平成 29 年度：色、平成 30 年度：水、令和元年度：AI）を設定し、講師をアカデミアに限らず、公共団体や個人など広い分野から招き、講演・討論を行っている。学際融合を目指す本学部の理念の実現に向けたセミナーとなっている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

日本学術振興会特別研究員として平成 28 年度から令和元年度に DC1 が 27 名、DC2 が 42 名採用されている。また、平成 28 年度から令和元年度に各種学術賞を 11 件受賞している。

〔優れた点〕

- 日本学術振興会特別研究員として平成 28～令和元年度に DC 1 が 27 名、DC 2 が 42 名採用されている。

〔特色ある点〕

- 「総長裁量 若手研究者に係る出版助成事業」を活用して、博士後期課程学生を対象とした出版助成を行っている。令和元年度からは経費不足分を研究科長裁量経費で補填し、学生ニーズに応えている。今までに出版した学術書は 106 冊に及び、このうち平成 28～令和元年度には 44 冊を出版している。平成 28～令和元年度に各種学術賞を 11 件受賞し、このうちの 6 件については、平成 28～平成 30 年度に出版された学術書が対象となっている。